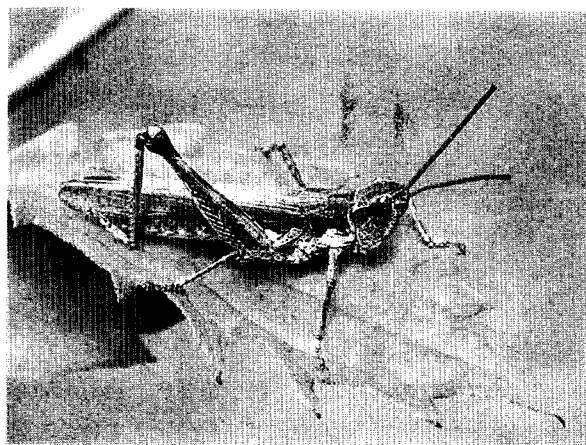
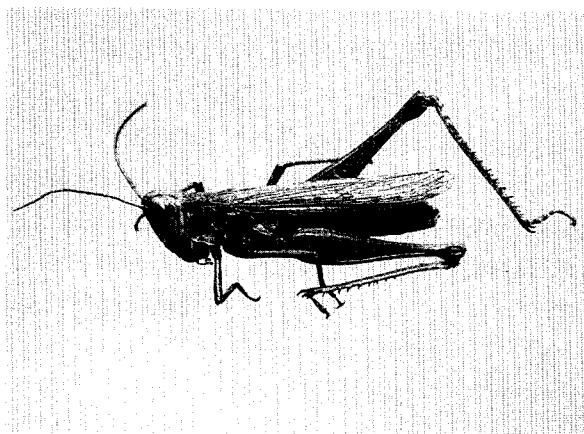


## 伊那谷でのヒメヒゲナガヒナバッタの 採集記録

小林 正明

ヒメヒゲナガヒナバッタ *Schmidtiacris schmidti* (Ikonnikov, 1913) は古川晴雄博士によって中房温泉から記載されて以来長くその存在が確認されなかった。筆者も中房温泉に3回探索に行ったが、採集できなかった。その後古川の発表は上記種のシノニムとされた。近年になっていくつかの場所から採集された(2001年, 山形県など)。伊那谷では東京の和田一郎氏が長谷村の小黒川沿いで記録した(1997年9月27日, 5♂2♀, 入笠山側ゲートから13km地点, 標高1,100m)(1998年9月6日, 数exs. 同地)。

私は和田氏に場所を教わり、2002年9月10日、成虫を採集した。



8♂6♀, 上伊那郡長谷村小黒川(標高1,100m), 2002年9月10日, 小林正明採集。

同地は戸台から入笠山に抜ける林道で、川沿いにある開けた草原であった。戸台と旧営林署の宿舎の中間地点で、標高1,100mの所である。大きな堰堤(おそ

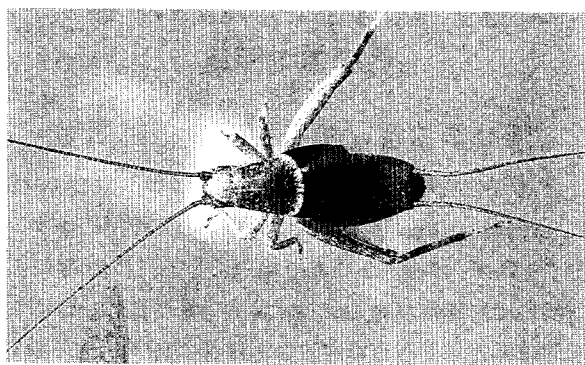
らく小黒川では一番大きな堰堤)の上で、林道から川に向かって道があり、川付近の道路沿いに比較的多くいた。小黒川沿いにはその場所からしか記録できなかった。戸台から入笠山まではおよそ16kmほどの距離があるが、今回の記録地以外はバッタ類の全くいない場所や、いてもヒロバネヒナバッタだけであった。またヒメヒゲナガヒナバッタの記録された場所にはヒロバネヒナバッタはいなかった。

(こばやし まさあき/〒395-0001 飯田市座光寺宮崎2155)

## 飯田市でカネタタキを記録

小林 正明

2002年8月14日、自然友の会の秋の虫観察会が追手町の美博周辺で行われた。そのとき、美博正門前の庭にあるエンドヒガンの根本のヤマブキの植え込みの中から、木下進氏がカネタタキ *Ornebius kanetataki* (Matsumura, 1904) 1雄を採集した。長野県でのカネタタキの記録は大変に少ないので報告しておく。



1♂, 飯田市追手町飯田市美術博物館(標高500m), 2002年8月14日, 木下 進採集。

3♂発音を聴く, 同地, 同日, 小林正明確認。

3♂発音を聴く, 飯田市桜町(520m), 同日, 小林正明確認。

3♂4♀1幼虫, 飯田市追手町飯田市美術博物館, 2002年8月15日, 小林正明採集。

従来の記録は1978年10月16日、天龍村伊那小沢で筆者が記録した2雄の声を聞いたことと、1雄を採集したのみであった。また「遠山郷に生きる動物たち」(1998年南信濃村教育委員会発行)には村内にカネタタキが生息していることが記録されている。そこには「村内には多いものではありません」と記載されてい